

MUSEUM NEWS

2019.2 ▶ 2019.3

インポッシブル・アーキテクチャー —もうひとつの建築史—

とき・2/2(土)～3/24(日)
ところ・2階展示室
内容・この展覧会は、20世紀以降の国外、国内のアンビルトの建築に焦点をあて、それらを仮に「インポッシブル・アーキテクチャー」と称しています。ここで「インポッシブル」という言葉は、単に建築構想がラディカルで無理難題であるがゆえの「不可能」を意味しません。言うまでもなく、不可能に眼を向ければ、同時に可能性の境界を問うことにも繋がります。建築の不可能性に焦点をあてることによって、逆説的にも建築における極限の可能性や豊富な潜在力が浮かび上がってくる。それこそが、この展覧会のねらいです。

約40人の建築家・美術家による「インポッシブル・アーキテクチャー」を、図面、模型、関連資料などを通して読み解きながら、未だ見ぬ新たな建築の姿を展望します。

観覧料・1200円(960円)、大高生960円(770円)
※()内は20名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料。併せてMOMASコレクションもご覧いただけます。



藤本壯介《ペトンハラ・ウォーターフロント施設》コンピュータ・グラフィックス、2012年

《関連イベント》

○クロストーク

とき・2/11(月・祝)14:30～16:30(開場は30分前)
ところ・2階講堂
出演・五十嵐太郎(本展監修者・東北大学教授)×建昌哲(当館館長)
定員・100名(当日先着順)/費用・無料
内容・本展の企画に携わった2人が、出品作品をもとに建築の可能性について対談します。

○レクチャー「インポッシブル・アーキテクチャーの起源と未来」
とき・2/23(土)14:30～16:00(開場は30分前)
ところ・2階講堂
講師・今村創平(千葉工業大学教授)
定員・100名(当日先着順)/費用・無料
内容・インポッシブル・アーキテクチャーはなぜ生まれ、今後どのような展開を見せるのかについて、お話しいただきます。

○ミュージアム・コンサート①
とき・2/24(日)14:30～(開場は30分前、演奏時間は約60分)
ところ・地階センタホール
出演者・佐藤通弘(津軽三味線)、吉見征樹(タブラ)
定員・60席(当日先着順)/費用・無料
内容・クロスカルチャーな活動で異彩を放つお二人が、様々な国の音楽にインスパイアされたナンバーをお届けします。

○ミュージアム・コンサート②
とき・3/3(日)時間未定(後日当館ホームページにて公開)
ところ・館内各所
出演者・jaywalker(Zoo-Zoo、RiE-men)
定員・60席(当日先着順)/費用・無料
内容・日常に潜むバイアスを1日の時間軸で表現するダンスパフォーマンス。当館所蔵の名作椅子も活用します。

○担当学芸員によるギャラリー・トーク
とき・2/16(土)、3/9(土)各日とも15:00から30分程度
ところ・2階展示室
費用・企画展観覧料が必要です。

美術館講座「映像の可能性」 第2回「物質と写真の衝突」

とき・3/24(日)11:00～17:00(予定、途中休憩有)
内容・鈴木了二氏の《断層建築》(昨年度の講座では未紹介)と、二人の写真家による映像を上映しながら議論します。
ところ・2階講堂
講師・鈴木了二(建築家)
ゲスト・金村修(写真家)、小松浩子(写真家)
※事前申込(抽選)、申込期間:2月12日(火)～2月28日(木)
※プログラム内容・申込方法は、ホームページでご確認いただくか、直接お問い合わせください。



所在地・〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1
TEL・048-824-0111 FAX・048-824-0119 URL・http://www.pref.spec.ed.jp/momas/
代表メール・p240111@pref.saitama.lg.jp
開館時間・10:00～17:30(展示室への入場は17:00まで)
休館日・月曜日(2/11は開館) 入館料・無料 観覧料・上記をご覧ください。

交通・JR京浜東北線 北浦和駅西口より徒歩3分(北浦和公園内)。JR東京駅・新宿駅から北浦和駅まで、それぞれ約35分。
※当館に来館者専用の駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります(企画展観覧で300円引き、MOMASコレクション観覧で100円引き)。団体バスは事前にご相談ください。お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたしますが、台数に限りがありますので予めご了承ください。

ミュージアムシアター 「鈴木了二映像作品上映会」

とき・3/23(土)11:00～13:00、13:30～15:30(予定)
内容・昨年度的美術館講座「映像の可能性 第1回:建築と映像の交差点」で上映した鈴木了二氏の映像作品を再上映します。
定員・当日先着80名/費用・無料
※申込不要。詳細はホームページでご確認いただくか、直接お問い合わせください。

アート体感ワークショップ MOMAS のとびら

とき・土曜日 13:30～15:00
対象・幼児から大人まで
費用・『工房』『親子クルーズ(企画展物語)』は500円。その他無料。
申込方法・館内で配布する申込用紙(ホームページからもダウンロード可)によりFAXでお申し込みいただくか、ホームページから直接お申し込みください。
○3月分のお申込みを2/1(金)から受け付けます。
3/2(土) アート★ピング[どなたでも]※申込不要
3/9(土) みる+つくる(企画展物語)[小・中学生]
3/16(土) みる+つくる(MOMASコレクション)[小・中学生]
3/23(土) み〜つけ![4～6歳+保護者]※申込不要

○4月分のお申込みは3/1(金)から受け付けます。
内容については、館内で配付する申込用紙またはホームページでご確認ください。

MOMAS コレクション(収蔵品展)

2018年度 第4期
とき・2019年1/12(土)～4/14(日)
ところ・1階展示室
観覧料・一般200円(120円)、大高生100円(60円)
※()内は20名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料。
※1/12～14を除く会期中の毎日14時から、美術館サポーター(ガイド・ボランティア)が展示作品について解説します。参加にはMOMASコレクション観覧料が必要です。

◇セクション:ユトリロとかパスキンとか
モーリス・ユトリロなど西洋近代絵画に、日本の近代絵画を交えてコレクションを紹介し、新収蔵品のポール・シニャック《アニエールの河岸》もお披露目します。
◇瑛九と光春—イメージの版/層
瑛九(1911-1960)と山田光春(1912-1981)における「版」や「層」に注目し、「イメージの搬送」の過程を探ります。近年収集した瑛九の油彩、フォト・デッサン、コラージュ、山田光春のガラス絵、素描を中心に構成します。
◇特別展示:瑛九の部屋
瑛九《田園》を暗室に展示します。見る人が光をコントロールできます。「絵を感じる」ための特別展示です。

《関連イベント》
○《アニエールの河岸》取得記念特別講演会 ポール・シニャックと西洋近代絵画の展開
とき・2/16(土)13:30～15:00(開場は30分前)
ところ・2階講堂
講師・高階秀爾氏(大原美術館館長・東京大学名誉教授)
定員・100名(当日先着順)/費用・無料

○学芸員によるギャラリー・トーク
とき・3/2(土)、3/16(土)、各日とも15:00～15:30
内容・新収蔵品のポール・シニャック《アニエールの河岸》(1885年)について、学芸員が解説します。
費用・MOMASコレクション観覧料が必要です。

○サンデー・トーク
内容・学芸員が展示作品から1点を選んで解説します。
費用・MOMASコレクション観覧料が必要です。
とき・2/3(日)15:00～15:30
担当学芸員・梅津元
作品・瑛九《田園》1959年

一般展示室(地階)

※日程・内容は変更される場合があります。最新の情報は各主催者へお問い合わせください。
※展示により開室時間(特に最終日の終了時刻)が異なります。

◆1/29(火)～2/3(日)
文教大学教育学部美術専修卒業制作展(日本画、油彩、版画、彫刻ほか) ……一般展示室1

◆2/6(水)～2/10(日)
平成30年度埼玉県立美術系高等学校作品展・卒業制作展(日本画、水彩ほか) ……一般展示室1～4

◆2/12(火)～2/17(日)
野美展(日本画、水彩、油彩、ドローイング、彫刻、工芸) ……一般展示室2
第15回埼玉県ネイチャーアートフォト支部写真展(写真) ……一般展示室4

◆2/16(土)～2/17(日)
埼玉県小・中学校児童生徒美術展第11回中央展覧会(水彩、版画、彫刻ほか) ……一般展示室1

◆2/19(火)～2/24(日)
埼玉大学教育学部卒業制作展/修了展/有志展覧会彩展(日本画、水彩ほか) ……一般展示室1～3

◆2/19(火)～3/3(日)
ヨシズミトシオ展(油彩、版画、水墨画、銅版画) ……一般展示室4

◆3/5(火)～3/10(日)
埼玉書道三十人展(書) ……一般展示室1
現展埼玉支部展(水彩、油彩、版画、工芸、写真) ……一般展示室3・4

◆3/19(火)～3/24(日)
第24回彩の国さいたまきりえ展(きりえ) ……一般展示室2
第15回彩の国写真倶楽部・写真展(写真) ……一般展示室4

◆3/26(火)～3/31(日)
第47回主体美術武蔵野作家展(油彩) ……一般展示室1
第23回さきたま書展(書) ……一般展示室3
恒星個展(a ri A Ru Creationz 藝術企画)(水彩、油彩ほか) ……一般展示室4

『日本橋』をめぐる友情の再発見

小村雪岱のことで常々お世話になっている泉鏡花記念館の穴倉さんから連絡があったのは、ちょうど去年の今頃でした。装幀家・雪岱を世に知らしめた『日本橋』(1914年)の出版元である千草館の主、堀尾成章のご遠慮とひよんなことから縁ができて、鏡花・成章・雪岱の交流がわかる新資料や、雪岱作と思しき肉筆画5点がみつかった、というのです。私にもすぐ彼女の興奮が伝染しました。

調べてみると、そのうちの4点は歿後まもなく刊行された『雪岱画集』(1942年)に収録されているものの、後の画集や展覧会ではお目にかかったことがなく、初期の作と思われる1点にいたっては全く初めて、という貴重な未公開作品ばかりです。

たとえば、市川団十郎を描いた〈八代目〉は、邦枝完二の小説「江戸役者」新聞連載時の挿絵をもとにしており、第1回国画院同人作品展(1937年)で発表されたもの。〈鎖骨菩薩〉の朝顔文様の着物の色鮮やかさには驚きましたが、鬢のほつれのこだわりの描写は、まさしく雪岱。説明的な描写が省略されているため、かえって妖しい想像をかきたてられます。これは昭華会新作日本画展(1939年)出品作で、〈八代目〉とともに出品歴や制作年が明らかな数少ない作例のひとつです。繊細な線で丁寧に描かれた仏画〈陽炎〉には、仏さまの夢想的なたたずまいに秋草やおおぎを組み合わせた、雪岱らしいアレンジが効いています。いずれも大作ではありませんが、画面のすみずみに充ちた心配り(たとえ空白であっても)こそ、雪岱ワールドの一要因だと得心がいく佳作ぞろいです。

穴倉さんは、調査後すみやかに、これら成章関係の資料を要に据えた企画展「日本橋—鏡花、雪岱、千草館—」を開催しました(2018.5.28～9.9)。あの神経質な鏡花が二人には早くから心を許して一緒に旅行するほどの仲であったこと、その信頼関係から生まれた至高の1冊『日本橋』などの美本が千草館から生み出された経緯などを検証した、意義のある内容でした。

当館でお預かりしている寄託作品の中に、雪岱の遺作整理委員として堀尾政弘(成章を改名)の名が記された軸があります。成章は、無名時代から晩年まで親身に雪岱を支えた人物であり、その作品の良き理解者でもありました。このたびの「出会い」を通じて、二人の厚い友情のみならず、この作品にこめられた思いも、より深く理解された心持がしました。(H.O.)



小村雪岱《鎖骨菩薩》、1939(昭和14)年、堀尾成章遺族蔵、図版提供:泉鏡花記念館

ミュージアム・ショップおすすめ商品

バングラデシュのナラヤンプル村とのフェアトレードを行う、サクラムヒラより新商品が届きました。村の女性たちがプリントした柔らかなカディコットンのふきんと、作り手さんの思いや、物語の世界が刺繍によって紡がれたポーチ。心のこもった商品を、ぜひ店頭でご覧ください。

売上は、女性支援や子どもたちの奨学金につながります。(K.S.)



カディコットンのふきん ¥1,000(税込)
ポーチ ¥3,000(税込)

